



今月の内容：

今月のトピックス／この人を知りたい（南郷村・酒井真太郎さん）／南会津再発見（下郷町・戸赤集落）
／今月のコラム／研修会・講習会等お知らせ

今月のトピックス

ふるさと農道緊急整備事業 白沢地区が表彰される

平成14年度福島県優良建設工事の表彰式が、福島県知事をはじめ農林事務所長、施工業者等の関係者が出席して福島市で行われました。南会津農林事務所管内からは特殊構造物部門で農村整備部所管の「ふるさと農道緊急整備事業白沢地区」（伊南村）の橋梁上部架設工が表彰されました。

「ふるさと農道緊急整備事業白沢地区」は伊南川で分断されている伊南村の白沢地区と宮沢地区を結ぶ重要な道路であります。この地区は平成10年度から着工し、平成13年度に上部工が東開工業株式会社（福島市）と協三工業株式会社（福島市）の共同企業体で施工されました。橋の幅員は8.5m、延長は143mで片側に幅員2mの歩道が設けられています。

本橋は河川内に橋脚が3本ありますが、工事により河川を汚すことができるだけないよう、自然環境に配慮



伊南川に架かる橋

しながら施工しました。また、積雪期の工事を避けるため綿密な施工計画を立て工期短縮に努めたこと、品質・出来栄えとも優秀であったことなどが評価され、今回の表彰となりました。

農村整備部は農業農村整備事業の水路、道路、活性化施設等の事業を担当しておりますが、皆様から親しまれる工事を施工していきたいと考えておりますので、今後ともご支援をお願いいたします。

（農村整備部）

「阿賀川流域子ども交流会」でブナの原生林探検!?

7月21日、只見町布沢の国有林「恵みの森」において、阿賀川流域子ども交流会が開催されました。

これは、上流と下流の子供達の交流を通じて川への親しみや森林が水源として果たす役割について理解を深めることにより、森、川、海を一体としてとらえる「循環の理念」についての認識を高めるため、県地域づくり推進室が企画したもので、阿賀川流域の小学生、新潟県から15名、会津地方から25名が参加しました。

参加者は、7月20日に猪苗代町にある「昭和の森」で開催された「うつくしま21森林づくり体験交流会」に参加した後、只見町に向かい「森林の分校ふざわ」に宿泊。翌日「恵みの森」に会場を移し、ふくしま・もりの案内人の堺英七さん、荒井勇さん、南会津農林事務所職員を講師としてブナの原生林の中を散策しながらネイチャーゲームを行い、森林の働きや恵み、植物の仕組みについて楽しく学びました。また、森林を流れる沢において水質調査も行われ、源流域の水の清らかさを再確認しました。

当日は好天に恵まれ、参加した小学生は涼しげな清流の流れる森林の中で森の恵みを実感しているようでした。

（森林林業部）



森の恵みって素晴らしいですね!

アマチュア木工家作品展、開催!

館 岩村森戸にある(株)オグラの敷地内に、「木を生かし、木の良さを世の中に伝え続けたい」との願いを込めて開店した「きこりの店」があることを皆さんはご存じでしょうか。「きこりの店」では、皆さんにもっとも木のことを知ってもらいたいと、「木彫りの器講座」や「漆工芸講座」などの魅力的なイベント活動を展開しています。

去る7月28日には、第7回アマチュア木工家作品展が



木作品がいろいろ

開かれました。県内及び関東近県を中心に58名の出展があり、創意工夫に満ちた素晴らしい作品の数々が「きこりの店」に展示されました。部門別に、「木彫り部門」(28点)には花台や深皿、仏像などが、「小物・玩具部門」(16点)にはスタンド、人形ケース、ランプ

シェード、花車、置時計などが、「家具部門」(16点)には、ベンチ、燈籠、酒ラック、腰掛などの作品が出展されました。

木工関係のプロの方による審査の結果、グランプリ賞には「木彫り部門」から大和田政弘氏(千葉県船橋市)の「深皿」が選ばれ、賞品の楡丸太(2m×84cm×100cm)が贈呈されました。また、一般人気投票で決まる大衆賞には「家具部門」から小松巖氏(埼玉県川口市)の「みずならの机」が選ばれたほか、各部門賞や店長賞、審査員特別賞等が決まりました。

アマチュア木工家作品展は毎年実施されています。皆さんも、アイデアあふれた木工品を出展してみてください。

(森林林業部)



グランプリです!

農業用使用済プラスチック回収にご協力を!

農 業用使用済プラスチックの回収がJ A会津みなみと南会津地方農業用使用済プラスチック適正処理推進協議会により、7月17日にJ A各支店において行われました。

農業用使用済プラスチックとは、農業生産での役割を終えたビニールやポリエチレンフィルムなどのことで、野積みや野焼き等の不適切な処理は環境への影響が心配されています。

今回の回収量は7,054kgであり、昨年と同時期と比べて約21%増加しました。しかし、これは全排出量の30%程度でしかないと推測されています。

「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により、農業用使用済プラスチックは産業廃棄物とされており、排出者(農業者)が自らの責任において適正に処理することが義務づけられています。また、環境負荷の軽減・資源再利用の観点から、廃棄物の発生を抑制するとともに、再生可能な資源として、できる限り利用することが必要であることから、県では本年度から、適正処理を一歩進めたりサイクル推進事業に取り組んでいます。

次回の農業用使用済プラスチック等の回収は11月の予定ですので、農業者の皆様のご協力をお願いします。

(農業振興部)



南郷トマトの出荷が始まりました

南 会津地域では、夏が冷涼な気候のため、美味しく、歯応えのあるトマトを栽培することができます。ここで栽培されるトマトは、「南郷トマト」と呼ばれ、京浜市場での評価が高く、福島県一の高品質トマトとして位置づけられています。近年は、日本海沿いのルートを経由して大阪市場へも出荷されています。

早朝に収穫されたトマトは、まず南郷村宮床の選果場に集められ、選別されて箱詰めされます。そして、その日の夕方までにはトラックで出荷されます。京浜市場には、翌朝に届き、早ければ当日の夕方には小売店で販売されます。

毎年、秋が深まり始める10月末日まで出荷が続きます。

なお、南郷トマトは、選果場でも販売されており、故郷からの贈り物としても人気があります。

(農業普及部)



この人を知りたい

「南郷トマト 産地育成の功労者」

南郷村 酒井真太郎さん

東北地方南部の梅雨が明けた7月23日、南郷村鶴巢集落の酒井久さんの家では、本年最初の南郷トマトの収穫と初出荷が行われました。

酒井さんの家は、65aのトマトと7haの水稲を組み合わせた農業経営で、家族がそれぞれの品目を分担しながら、効率の良い経営を営んでおられます。

経営の柱となるトマトは、経営主の久さんご夫婦と長男の三郎さんが担当し、水稲の管理は、久さんのご両親である真太郎さん、ヒロ子さんご夫妻が担当されています。

実は真太郎さん、知る人ぞ知る南郷トマト産地育成の大功労者でもあります。

昭和51年に福島県指導農業士として知事の認定を受け、平成元年までの13年間、地域農業のリーダーとして活躍されました。中でも南郷トマトの産地育成に尽力され、今日の礎を築かれた事でもその名が知られています。

トマト初出荷の日、南郷トマトが産地として知られるようになった経過を、次のように話してくださいました。

・昭和35年、5aのトマト試験栽培が行われ、米の倍



右が真太郎さん、左が久さんです。

に当たる8万円を売り上げて注目され、南郷トマト栽培のキッカケとなったこと…。

・昭和38年、農業改良推進員の会長職にあったとき、トマト栽培を呼びかけ、栽培者の掘り起こし活動に昼夜駆け回り、130aまで面積を拡大し、市場から認められるようになったこと…。

・昭和50年、トマト生産組合の副組合長として、野菜指定産地の指定と共同選果場の建設に向けて「栽培面積倍増運動」を展開し、51年3月に現在の選果場を建設、面積も7haから17haへと増加したこと…。

・昭和58年トマト生産組合長に就任、土づくりのための堆肥センター建設やハウス栽培を推進し、簡易雨除け栽培からパイプハウス栽培へと移行して行ったこと…等々。

今南郷トマトは、132戸の農家で32haが栽培され、県内有数の産地として知られていますが、その過程には、真太郎さん始め多くの方々のたゆまない努力があったことを教えられました。

(農業普及部)

南会津再発見

「山桜の里 戸赤集落」

下郷町農林課

下郷町の中で最も雪が多い集落で知られている戸赤。平成12年3月に緑の文化財として県の指定を受け、毎年春にはこの集落を訪れる人々が多く、観光ツアーなども組まれています。

戸赤地区は、下郷町の西の端に位置し、人口40名(平成14年4月1日現在)の静かな集落です。

県道下郷・舟鼻線が走り、阿賀川の支流、戸石川の上流で、春から秋にかけては、素晴らしい溪谷美をなし、冬は雪に埋もれた静かなたたずまいを見せています。

町立楯原小学校戸赤分校も平成11年度に休校になるなど、少子、高齢化と典型的な過疎の集落ではありますが、そのような中であって、最近山桜を見ようと県内外から訪れる人が多く、賑わいを見せています。その時節は、集落の人々の中には表情を豊かにして、観光案内を買っ



山桜の頃の戸赤集落

て出る人もおり、観光客に一時の空間を提供し、分校の庭や家々の間から鑑賞していただいています。

山桜は集落の裏山(西側)一帯に咲き誇り、その中を近年遊歩道(全長600m)の整備が行われ、散策できるようになっています。

最近、各地で環境問題が大きく取りざたされる中

(4ページに続く)

(3ページから続く)

でも、この集落はそのようなこともなく、田畑のほ場整備、生産環境整備においては上下水道整備、合併浄化槽の整備も終わり、澄み切った、のどかで静かな風情を残しつつ、近代的な生活を営んでいる集落です。一度、おいで下さいませ。

■桜の見頃：4月下旬から5月上旬の一週間程度。

■場所：国道121号線下郷町大字栄富
姫川橋から10km

■お問い合わせ先：下郷町農林課林業係
(電話：0241-69-1188(内線262))

今月のコラム

個人的な 指標としての山



国道352号線添いに伊南村の小豆温泉がある。温泉の入り口にスノーシェットがある。

このスノーシェットの山ぎわに1mくらいの幅の縁がありこれが目指す三岩岳の登山口になっている。いきなり国道の構造物の上を歩き出すことになる。そして、まもなく鉄板の50段くらいある急な階段になる。そこを一気に登りきると山道に入る。

歩き出して15分位したらもうそこは大きな木々の茂っている静寂な森林の世界に入ることが出来る。近くを流れる瀬音が涼を運んでくれる。

しばらく木々の日陰を歩いた後大きな沢の仮の橋

を渡ると、ときどき太陽の射す山道が続くことになる。この山道は急な登りが延々と続くのである。国道の登山口から三岩岳頂上(2,065m)まで6.2kmくらいを歩く間に1,300mくらいの高さを上ることになる。10数kgのザックを背負って頂上を目指すのが約4時間前後を要するのである。

今まで三岩岳へ数回の山行きを繰り返したが4時間を切ったのは1度だけであった。梅雨時に登ることが多いせいか頂上からの展望を楽しめたのは2度ほどでしかなかった。

私はこの山のハードな急登に魅力を感じている。この山を登ってからは周辺の山への山行きが気楽になったのである。いつしか三岩岳と比べて、今度の山はどのくらい高度を稼ぐ必要があるかを検討するようになっていたのである。

中門岳付近より眺めた三岩岳(写真)からは、ハードな急登は想像できないが、私には魅力ある山の一つであり、体力の指標にしている山でもある。

(農業普及部長 玉木保雄)



～研修会・講習会等お知らせ～

内 容	月 日	場 所
①専門研修：土地利用型作物栽培の最新情報	9月 4日(水)	農業試験場会津地域研究支場
②県民農業講座：県産小麦を使ったパン加工	9月12日(木)	農業短期大学校(矢吹町)
③農産加工研修：産品開発研修	9月19日(木)	ハイテックプラザ(郡山市)

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 地域農林企画室 TEL 0241-62-5866
農業普及部 TEL 0241-62-5262



あて先 〒967-0004
福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1
南会津農林事務所 地域農林企画室
TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256
E-mail minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp
ホームページ http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/
みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真(撮影：円谷)
湯野上温泉大花火
(下郷町湯野上)



古紙配合率100%再生紙を使用しています。

この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。

